# 広島大学 人間社会科学研究科（文学研究科） 言語学分野 提出論文一覧

これは、2025 年 4 月現在、 広島大学人間社会科学研究科（文学研究科）言語学分野に提出された博士論文と修士論文の一覧である。博士論文における*(アステリスク)は、 論文博士であることを示す。並びは提出年度順になっている。

2025 年 4 月 3 日

広島大学言語学研究室
nidaba@hiroshima-u.ac.jp

## 博士論文一覧

**平成 26 年度**

松井 真雪『ロシア語における有声性の対立と対立の弱化 ：音響と知覚』

**平成 24 年度**

Levent Toksoz『日本語およびトルコ語における外来語をめぐる意識に関する対照言語学的研究：日本人大学生とトルコ人大学生を対象として』

**平成 16 年度**

角谷征昭『マリラ語の記述的研究』

**平成 15 年度**

上野貴史『19 世紀イタリア語における名詞句の研究：レオパルディの散文言語をデータとして』

南　得鉉『日韓両言語の存在表現に関する対照言語学的研究』

**平成 14 年度**

今田良信*『古フランス語における語順研究：13 世紀散文を資料体とした言語の体系と変化』

**平成 13 年度**

植田康成*『ドイツ語イディオム学習・教授法に関する総合的研究：日独イディオム比較・対照研究の視点から』

井浦伊知郎*『アルバニア語における目的語重叙表現の統語論的研究』

**平成 12 年度**

Harry　Solvang『第二言語習得理論に関する基礎研究：ノルウェー語話者の日本語習得過程を中心に』

**平成 11 年度**
小高裕次『西夏語の格助詞に関する統語論的研究』
橘　孝司*『中世民衆ギリシャ語の空間表現…複合前置詞の成立…』

**平成 9 年度**
朴　垠貞『移動動詞構文における格助詞の日・韓対照研究』

**平成 7 年度**
金　恩希『条件文の日・朝対照研究』

**平成 6 年度**
古浦敏生*『イタリア語における冠詞研究』
高永　茂*『都市化する地域社会の社会言語学的研究』

**平成 5 年度**
佐藤暢治『モンゴル系言語東郷語の形成と言語接触に関する研究』

**平成 4 年度**
大城光正*『象形文字ルウィ語における動詞の語構成の研究』

**平成 3 年度**
マーヒル・エルシルヴィーニー『日本語動詞アスペクトの研究』

# 修士論文一覧

**令和 6 年度**

坂本 琢也『フランス語反使役動詞に関する一考察』
畑上 尭也『リグヴェーダとアタルヴァヴェーダにおける未来語幹の研究』
石川 怜『所有の与格(Possessive Dative)の研究』

**令和 5 年度**

Faidsin Ahmad Rasyidi『インドネシア語における“nya”の形態統語論的研究』

**令和 4 年度**

中尾 匡伸『「可能」という文法概念の一考察－日本語「得る」の通時的変遷から－』
山内 滉生『日本語の補文標識について－格助詞「と」を中心として－』

**令和 3 年度**

赤星 宏樹『フランス語における移動動詞から属詞動詞への変化について－動詞 *devenir* を中心として－』
永野 隆童『アラビア語におけるコピュラ文の研究－情報構造から見た代名詞要素を中心として－』
渡部 亮太『接続助詞の「主題性」についての考察－ガ・ケド・ノニの通時的比較を通して－』
小寺 美花『日本語の副詞について－いわゆる状態副詞の扱い－』
孫 夢瑩『中国語における構造助詞“得”の研究－構造助詞“地”との比較を通して－』
Raden Yusuf Kurniawan『インドネシア語における形容詞語根の動詞化－形態統語論の観点から－』

**令和 2 年度**

Maria Gustini『現代スンダ語における敬語体系：日本語の敬語体系との対照研究』
佐々木 瞳『マオリ語における統語的能格性の研究』
齊藤 小雪『ロシア語の不定人称文に関する研究』
李 英恩『韓国語「名詞類 ita」についての考察』
趙 曄『中国語における心理動詞の研究：日本語心理動詞との比較を通じて』

**平成 29 年度**

武内 康佳『ケラビット語バリオ方言の研究：語順類型論的観点を中心として』

**平成 27 年度**

横田大輔『言語の語用論的側面について：トルコ語を素材として』

**平成 23 年度**

劉　婉瑩『第二言語習得における母語関与に関する研究：中国語母語話者及び韓国語母語話者による日本語漢字語彙の産出過程から』

梅　梅『日中電話会話終結部に関する比較研究』

松井真雪『阻害音の有声性の不完全中和：ロシア語からの証拠』

廣川純子『日本語の形容詞アクセントの変化：日本語話し言葉コーパスを用いた分析』

**平成 22 年度**

土井　諭『言語の創造的側面に関する認知言語学的研究』

**平成 20 年度**

丁　雷『中国語と日本語の音韻システムの対照研究とピンイン教育用ソフトウェアの開発』

金　戊寅『中日両言語における同形異義語に関する研究：現代日本語の小説とその中国語訳における使用例に基づいて』

**平成 19 年度**

佐藤　淳『日本語関係節処理に影響を与える要因の考察：使役関係節を用いて』

**平成 16 年度**

Ishizu Yuko "An Analysis of Colloquialisms in Troilus and Criseyde"

古田尚久『日本手話における指さし表現の分類』

**平成 13 年度**

坂井ゆかり『日本語とフランス語における擬音語の対照研究』

山本繭子『インドネシア語における英語起源の借用語研究』

田口卓司『指示詞のハンガリー語・ 日本語対照研究』

**平成 12 年度**

大澤　桂『ドイツ語におけるハイフン使用に関する考察』

加藤高志『現代イタリア語の前置詞 da と di の用法について』

山下克己『ネパール語の能格構造について』

**平成 11 年度**

藤本拓自　『日本語における共感覚形容詞の意味論的研究』

**平成 10 年度**

小林和世『日西対照研究…身体部位名を用いた表現を資料として…』

水野圭子『トルコ語における補文標識としての ki の用法について』

**平成 9 年度**

壱岐祐介『ラテン語語彙におけるエ トルリア語の影響：…ギリシア語起源の語彙を中心として』

上田洋子 『幼児のひらがな書字能力について』

角谷征昭 『スワヒリ語における関係節中の目的接辞について』

Harry Solvang 『ノルウェー語から見た日本語の条件表現』

**平成 8 年度**

衣畑博章『聖書ヘブライ語における名詞の修飾形式についての考察』

**平成 5 年度**

井浦伊知郎『アルバニア語の se,që を用いた２種の補文構造の意味論的研究』

小高裕次『西夏語における格体系の研究：助詞 yeh の機能を中心に』

**平成 4 年度**

松川陽平『ヒッタイト語における指示詞 a-,ka-,apa-の意味構造の研究』

**平成 2 年度**

佐藤道雄『コーランのアラビア語における動詞基本形の fa' ala と yaf' alu の関係についての考察』

**平成元年度**

坂東照啓（明朗）『ルネッサンス期におけるポルトガル語の Que に関する共時的・通時的研究：「ルジーアダス」 を中心に』

**昭和 63 年度**

佐藤（高橋）りえこ『現代ギリシア語における関係詞 pú の用法：コイネー・ギリシア語と対照して』

近松明彦『新約聖書ギリシア語における Infinitive 構文の研究』

マーヒル・エルシリビーニー『日本語のアスペクトの研究』

三上宗一『古典ヘブライ語における Neph' al 語幹について』

水野（石田）由美『現代アメリカ英語における仮定法現在の考察』

**昭和 61 年度**

橘　孝司『中世ギリシア語における与格形消失の研究：民衆叙事詩「ディゲニス・アクリタス」を素材として』

**昭和 60 年度**

高永　茂 『宮島町における標準語化の社会言語学的研究』

**昭和 59 年度**

犬塚優司『現代中国語における「把」字句の研究』

田村泰男『中世高地ドイツ語における数意識の構造』

峯　正志『シュメール語における enclitic copula の研究』

**昭和 58 年度**

米津比呂 『言語学的観点からの失語症の分析：失語症者の構文の理解と産出』

**昭和 57 年度**

西村政人『中期英語における否定表現について』

前田弘隆『古仏語における名詞限定補語句の構成形式について』

**昭和 55 年度**

今田良信『フランス語における冠詞と固有名詞についての一考察：島名を中心として』

深見兼孝『現代朝鮮語における色彩形容詞の形式と意味について』

前田 Joyce K..（McFarlane）"A Comparative Study of Degre Adverb sin Japanese and English"

**昭和 54 年度**

石岡精三『他動詞複合時制における過去分詞の一致について （13 世紀中世スペイン語を中心に）』

岸　順子『バスク語動詞に現われる定表現に関する一考察』

**昭和 50 年度**

酒見紀成『新約聖書ギリシア語における名詞句の統計的研究』

福冨貢二 "A Study of' Voice': Its Structure and Expredsion"

Sheddy N. Tjandra "The Indonesian Pasive Construction in Contrast with the Japanese Passive Construction"

**昭和 49 年度**

池田康雄『上代日本語における母音交替と母音組織』

板谷（田村）正夫 "The Semantic Theory of Uriel Weinreich: A Critical Analysis"

大江（小林）孝子『スペイン語における関係詞の研究：Don Qui jote に用いられた「cosas ＋ pre.＋ quien」について…』

大城光正『ヒッタイト語の小辞の研究』

**昭和 48 年度**

浮田三郎『現代ギリシア語の否定表現：その諸問題点と一考察』

**昭和 47 年度**
阿部節子『古典ヘブライ語動詞時制の本質：ASPECT の用法と意味について』
小脇光男『シュメール語の動詞接中辞の研究』

**昭和 46 年度**
田中泰賢『言語の実相：新しい人間の愛語』
丸山幹正 "A NewApproach to Poems ofPaulEluard byModern Poetics"
**昭和 44 年度**
村上勝也『「ab/a,ex/e ＋子音」の史的研究』
藪下紘一 『「Parzival」 における諸問題』

**昭和 43 年度**
倉田馨円 『法華経 （散文） における動詞の位置について』
林　勲 "On the JakobsonianDistinctiveFeature Theory"

**昭和 42 年度**
藤井（宮本）美枝子『英語における形容詞の比較変化形式について』

**昭和 41 年度**
原野　昇『La Chanson de Rolland 他における過去分詞の一致について』

**昭和 40 年度**
竹島俊之『新約聖書ギリシア語の冠詞の用法について』

**昭和 39 年度**
岡崎忠弘『ニーベルンゲンの歌における否定表現について』

**昭和 37 年度**
古浦敏生『イタリア語における定冠詞と無冠詞に関する一研究』
山下貴久子『ヘレニズム時代の共通語』
（以上）